

今月号のISIJ情報ネットワークは、東北支部に編集をお願い致しました。東北支部ISIJ情報ネットワーク編集小委員会のご協力により、東北支部ならではの興味深い記事を多く掲載することができました。

今後も各支部のご協力を得て、ISIJ情報ネットワークをより充実していく予定です。

東北支部から会員の皆様へ

1. 日本鉄鋼協会 東北支部の活動概況



東北支部長 谷野 満
(東北大学金属材料研究所)

東北地方では古代から鉄作りが行われていたし、江戸時代には中国地方と並ぶ「たたら製鉄」の2大産地であった。また、日本における近代製鉄工業が釜石から始まったことは良く知られている。しかしながら、現在では域内には高炉一貫製鉄所が無くなり、また鉄鋼関連企業の数もあまり多くない。東北地方6県は面積にして日本全土の約18%、人口にして8%を占めながら、日本鉄鋼協会全正会員数に対する支部会員の割合は2.55%に過ぎない。これが東北支部の現状である。

今年度の東北支部の活動方針は昨年度までと基本的には同じであるが、従来から高いポテンシャルを有する製錬関係に加えて、材料関係の研究会やシンポジウムにも力を注ぎたいと考えており、その一環として今年度当支部が当番学会となっている六学協会東北支部連合シンポジウムについては「21世紀を支える鉄鋼材料の新しいメタラジー」というテーマを設定した。

また、今年度から新たに始まる事業として「高等学校理数系教諭の製鉄所見学と鉄鋼技術者との懇談会」と「ISIJ情報ネットワーク」の支部編集がある。これらはいずれも本部事業の一環として、第1回目を東北支部が実行す

るものである。前者は東北地方のうち県内に製鉄所がない宮城県、福島県、山形県の3県の高校教諭を対象に関東地区の製鉄所への見学会を行う。なお、東北地方の大学生を対象にした「地区見学会」も実施する予定である。

後者については、域外にはあまりよく知られていない東北地方の大学、研究所、並びに企業の実状を全国の会員諸兄に知って頂くことに重点をおいて編集を行うことにした。

2. 東北支部の事業

2-1 湯川記念講演会報告

徳田 昌則

(東北大学素材工学研究所)

平成4年7月6日午後、本協会東北支部主催の本年度湯川記念講演会が森田善一郎 阪大教授および阿部光延 新日鉄フェローの2氏をお迎えし、東北大学工学部金属・材料系大講義室で開催された。

冒頭に東北支部長 谷野満 東北大金研教授より、開会の挨拶と故湯川正夫氏の業績および記念講演会の由来について紹介がなされた。

以下に2題の講演内容を概略紹介する。

(1)「物性的立場からの鉄鋼製錬研究へのアプローチ」

大阪大学工学部 材料開発工学科教授

森田善一郎氏

鉄鋼製錬の基礎研究は、物理化学的および化学工学的立場からの研究に大別され、物理化学的研究はさらに熱力学、動力学、物性の3つの分野に分類できる。講演者は、大学卒業後今日に至る約40年の間、主として鉄鋼製錬の基礎研究をこれらすべての立場から行ってきたが、本講では主として物性的立場から行われた研究の一部を紹介し、また将来展望について触れている。

講演者は、鉄鋼プロセスに関与する物質(主として溶鉄、溶鋼、スラグなど)の熔融状態における物性を実験的およ